

令和4年度学校自己評価システムシート (県立所沢北高等学校)

| | |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 叡智育成・自主自律の理念のもと、学習・部活動・学校行事を奨励する中で豊かな資質を伸ばし、高い志を掲げて社会に貢献できる人間を育成する学校 |
|--------|--|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 確かな学力と自立する力の育成に向け、ICTを効果的に活用した不断の学習・授業改善を行い、生徒が主体的に学習に取り組む態度や探究的に学ぶ習慣を育み、生徒一人一人の進路希望実現を支援する。 2 豊かな心と健やかな体の育成に向け、自律的に生活する力や他者と尊敬し合える関係を築く力を身に付けさせ、社会を支える資質・能力の基礎を育む。 3 社会に開かれた教育課程の実現に向け、家庭・地域との協働、国際交流や大学等との連携を充実させる。 |
|------|---|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|---|
| 出席者 | 学校関係者 | 名 |
| | 生徒 | 名 |
| | 事務局(教職員) | 名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | | |
|-------------|--|--|---|---|-----------|-----|-------------|
| 年 度 目 標 | | | | 年 度 評 価 (月 日 現 在) | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | 【現状】 生徒一人一人の確かな学力の育成と進路希望の実現に向け、教員、生徒、保護者が協力して取り組んでいる。昨年度は、国公立大学(大学校含む)合格者は92名、難関私立大学への合格も増加している。 理数科設置から7年が経ち、一昨年度よりSSHの指定に向け、申請と実施に向けた準備を行っている。 【課題】 生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、「探究的な学び」を推進していくことや「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてICTを効果的に活用した授業改善を続けていく必要がある。また、生徒の自学自習時間の増加が喫緊の課題である。 生徒一人一台タブレット端末の導入及び利活用に向けた調査研究やSSHの指定に向けた校内外の準備等が課題である。 | ① 生徒一人一人の在り方生き方と関連付けた「探究的な学び」を実現する ② ICTを効果的に活用し「主体的・対話的で深い学び」を実現する ③ 自律(自立)的学習者の育成に向け、生徒の自学自習時間(授業時間外の学習時間)を増加させる ④ BYOD回線を活用した一人一台タブレット端末の導入及び利活用を進める ⑤ SSHの指定に向けた申請及び実施に向けた準備を計画的に進める | ① 進路指導部、理数科部、総探委員会が中心となり、「探究的な学び」と進路希望の実現をつなげていく(通年) ② 各教科等で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTの効果的な活用について研究し、授業公開や研究協議を実施する(通年) ③ 進路指導部や学年団における啓発や、各教科等において課題設定を工夫する(通年) ④ 教務部、進路指導部、ICT委員会が中心となり、一人一台タブレット端末の導入及び利活用を進める。(6月~12月) ⑤ 理数科部、SSH準備委員会が中心となり、昨年度のフィードバックを得て、申請及び実施に向けた校内体制を構築する(通年) | ① 自らの在り方生き方や進路希望と「探究的な学び」を関連付けた生徒の割合6割以上(生徒アンケート) ② 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現した生徒の割合7割以上(生徒アンケート) ③ 平日学年+1H、休日学年+3Hの自学自習時間を確保できた生徒の割合5割以上(生徒アンケート) ④ 令和5年度入学生からの導入及び利活用方針が策定できたか ⑤ SSHの申請書を提出し、指定校に認定されたか | | | |
| 2 | 【現状】 生徒指導部及び各学年が中心となり、基本的な生活習慣の確立や学校行事等への主体的な参加を促している。 【課題】 HR、委員会、学校行事や部活動等を通じて生徒にリーダーシップを発揮させる機会をより多く創出することが課題である。 SC・SSW、家庭や外部機関等との連携を強化し、生徒一人一人の状況に応じた木目細やかな支援を行う必要がある。 | ① 高い規範意識を持って、自主的・自律的に学校生活を営む資質・能力を育成する ② 自他を尊重する社会性を身に付け、リーダーシップを発揮できる資質・能力を育成する ③ 生徒一人一人の状況に対応できる組織的な支援体制を構築する | ① 生徒指導部(生活係・生徒会係)が中心となり、安心・安全な学校生活や充実した行事を運営できるように指導・支援する(通年) ② HR、委員会、学校行事や部活動等を通じて、生徒がリーダーシップを発揮する機会を創出する(通年) ③ SC・SSW、家庭や外部機関と連携し、多様な生徒の状況に丁寧に対応する(通年) | ① 事故・苦情・指導対象者の減少(前年度比) ① 学校行事等における充実度等8割以上(生徒アンケート) ② リーダーシップを発揮する機会を得た生徒6割以上(生徒アンケート) ③ SC・SSW、家庭や外部機関と連携の状況 | | | |
| 3 | 【現状】 学校評議員会や「所北を考える会」、保護者アンケート等を通じて、本校の取組について複数回のフィードバックを得て、教育活動の改善に努めている。 国際交流や大学等との連携にも意欲的に取り組んでいる。 【課題】 本校の教育活動について各種媒体を効果的に活用して、発信していくことが課題である。また、国際交流や大学等との連携を強化するとともに、地域との連携・協働を積極的に進めていく必要がある。 来年度に迫った創立50周年記念事業実施に向けた準備を行うことも大きな課題である。 | ① 学校評議員会や「所北を考える会」、保護者からのフィードバックを生かした学校経営を行う ② 国際交流や大学等との連携を強化するとともに、地域との連携・協働を目指す ③ HPや各種通信、PTA広報誌、市教委や学習塾の広報媒体等を効果的に活用して、本校の教育活動を広く発信する ④ 創立50周年記念事業に向けた綿密な準備を行う | ① 評価運営委員会が中心となり、様々なフィードバックを精査し、教育活動の改善に生かす(通年) ② 国際交流委員会、中高連絡委員会、理数科部、進路指導部が中心となり、大学や地域との連携を図る(通年) ③ ICT委員会を中心となり、充実したHPに向けた更新を行う(通年) ③ 市教委や学習塾の学校説明会や広報媒体を通じて本校の魅力を広く発信する(通年) ④ 実行委員会総務部会が中心となり、記念事業の内容・詳細を計画する | ① フィードバックを生かした教育活動の改善の件数 ② 大学や地域との連携の状況(前年度比) ③ HPの更新状況及び学校説明会や広報媒体への参加状況(前年度比) ④ 記念事業の内容・詳細に係る計画の進捗状況 | | | |

| |
|-------------------|
| 学校関係者評価 |
| 実施日 令和 年 月 日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 |